

しぜんを大切に

柳川市立豊原小学校三年 武末 しじょう

ぼくは、夏休みに友だちの家に遊びに行きました。友だちの家でゲームをしたり、外でボール遊びをしたりしました。

友だちと遊んでいると、友だちのお父さんが帰ってきて、釣りに連れて行ってくれました。だから、ぼくたちは、じゅんぎをしで、近くの川にいきました。

川に着いたら、さっそく釣り開始です。ゴカイというエサを釣りばりにつけて、釣りぞおの先にすずをつけて川になげました。何回も何回もなげました。しかし、なかなかすずは、なりません。あきらめて帰ろうとしていた時、すずが「チリチリ」となりました。ぼくは、いそいで引き上げました。すると、約十五センチメートルのウナギが釣れました。ウナギが釣れたとき、友だちのお父さんが、「昔は、もつとおおきいのがつれたよ。今は、外来種がふえて、川のごみもふえて、生き物たちが川にすみにくくなつたやろかね。次はもつと大きいのがつれるとよかね。」と言いました。ぼくはその時、昔は川がもつときれいだったことにびっくりしました。食べた後のおかしのふくらや、ペットボトルがうかぶ今の川からは、想像できません。

しかし、昔の川がきれいだったことは事実です。この事実をこわしていったのは、たくさんのごみを川へと捨てた人です。捨てた人は、なぜ捨てたんでしょう。ぼくは、ごみは川に捨てます。ごみはごみは川にすてると小さい時から言われています。でも、できない人がいるので、川は、どんどんまたなくなつていきます。

この今をかえるために、ぼくは、地球にすむ人みんなが、ごみを川にすてるのが必すらだと思ひます。ぼくは、地域のらみひろい活動にさんかしようと思ひました。

これからも小さなことがこれからの未来を變えていき生きものや地球の人みんなの生活できるよつにしていただきます。